

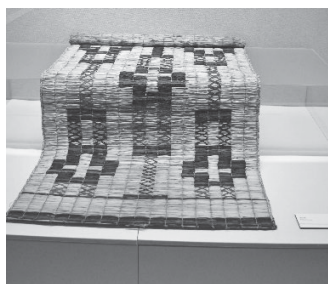
# 国立アイヌ民族博物館 第1回テーマ展

## 「収蔵資料展 イコロ ―資料にみる素材と技―」



特集

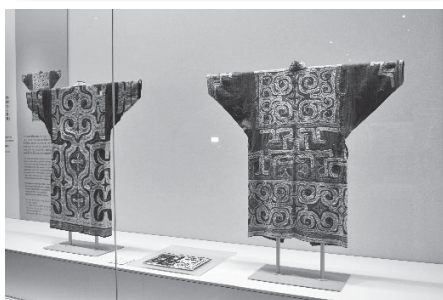
国立アイヌ民族博物館の第1回テーマ展が好評開催中です。1万点を超える同館の収蔵資料の調査・研究を進める中、収蔵資料展を同館特別展示室で開催しています。会期は3期（1期：令和2年12月1日～1月24日、2期：2月2日～3月21日、3期：3月30日～5月23日）に分かれています。1期は、開館に向けて収集した新着資料約80点を「布」「ガマ」「木材」「漆」「金属」「紙」という六つのテーマに沿って紹介しています。「素材と技」に注目し、新たに導入した分析機器（X線CT装置など）による現段階での調査結果やアイヌ民族の素晴らしい技が見どころです。一部を写真で紹介します。



【ガマ(シキナ)】

植物を巧みに用い作られたごぎのうち、ガマを材料にした資料を展示。CT装置でほぐすことなく編み方が判明しています

【布(センカキ・アットウシ)】



さまざまな素材から作られた儀礼用衣服。文様の美しさだけでなく、素材や技法の分析結果は、資料の背景や作り手の技術を知る入り口となります

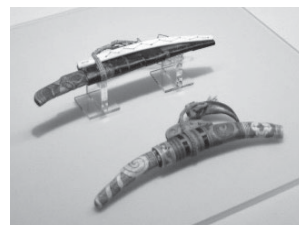
さまざまな種類の漆器を披露しています。中でも儀礼で用いられるタカイサラ（天目台）、トゥキ（杯）、イクパスイが見どころとか

【漆(ウッシ)】



【金属(カニ)】

アイヌ民族は交易によってさまざまな金属製品を入手していました。分析により当時の交易の様子を知る手掛かりが紹介されています

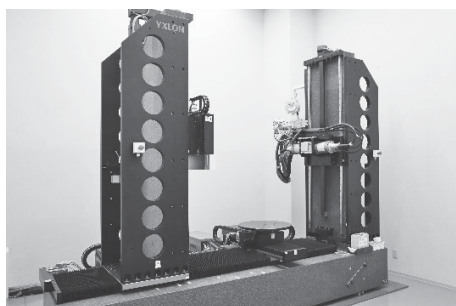


【木材(ニ)】

マキリ（小刀）は鞘の素材が木材だけでなく、樹皮や鹿角が使用されているものも展示。実物とCT画像の見比べがお勧め



これが大活躍の新兵器、X線CT装置だ！



国立アイヌ民族博物館 提供



【紙(カンピ)】

絵師・小玉貞良が描いたアイヌの風俗画「蝦夷国風図絵」の一部。フランスで見つかり、一昨年、日本に里帰りし、本展が初公開となっています